

|  |  |   |                                  |             |       |
|--|--|---|----------------------------------|-------------|-------|
| <b>タイトル</b><br>(活動概要)  | 37 人間ちえの輪  | <b>アプローチ</b><br>(関連する力)   | 「自分づくり」②<br>「仲間づくり」⑬<br>「集団づくり」⑰ |             |       |
| <b>タイミング</b><br>(実施時期)   | 通年   | <b>活動場所</b>   | 運動のできる広い場所                       | <b>所要時間</b> | 5～15分 |
| <b>対象学年</b>  | 幼・小低・小中・小高<br>中1・中2・中3・高   | <b>対象規模</b>   | 学級・学年                            | <b>活動場面</b> | 体育・集会 |
| <b>活動のねらい</b>  | <p>&lt;背景&gt; 集団と自分の関わり方を感じる機会が少ないため、身体を通して集団と自分の関わりを意識できない子どもが多い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ちえの輪をほどく作業を通して、コミュニケーションの大切や仲間と気持ちを合わせることの大切さを実感する</li> <li>・ちえの輪を作ったり、ほどいたり身体接触を通して、集団の中での自分の動きを意識する</li> </ul> |   |                                  |             |       |
| <b>準備</b>  | 動きやすい服装  |   |                                  |             |       |
| <b>学習・活動</b>   |  | <b>支援の観点・留意点等</b>   |                                  | <b>資料等</b>  |       |
| 1 導入   |  |   |                                  |             |       |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           グループや自分の動きに気をつけながら、ちえの輪を作ったり、ほどいたりしよう。         </div>   |  |   |                                  |             |       |
| 2 主活動<br>○やり方を知る<br>・10～15人で手をつなぎ輪になる<br>・右手が上側、左手が下側になるようにする<br>・ちえの輪をほどく役を2人決め、グループの動きが見えないように待つ<br>・グループは手をつないだまま自由に動いてちえの輪を完成させる<br>・できあがったちえの輪をほどく役の2人は協力してほどいていく<br>○グループ毎に人間ちえの輪をつくる<br>・完成したら、ほどく役の2人が協力してほどいていく |  | ・活動中は、言葉を使わず黙ってやる約束をする<br><br>・ちえの輪を複雑にしようとして体に負担がかからないように注意する<br>・ちえの輪役の人は、ヒントを与えたり、勝手に動いたりせず、黙って言われたとおりに動くようにする<br><br>・体に無理がかかっていないか、声をかける<br><br>・ちえの輪をほどくのに時間がかかるなら降参とする |                                  |             |       |
| 3 ふり返り<br>・グループの中で自分がどのような動きをしたか、どうかかわったかについて気づいたことや感じたことを話し合う   |  |   |                                  |             |       |
| <b>配慮事項</b>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体接触を伴うので、グループ構成（男女別など）に配慮する</li> <li>・ほどく役の子は、強引に輪をほどこうとしないように注意する</li> <li>・楽しく参加できるように配慮し、参加を強要しないようにする</li> </ul>  |   |                                  |             |       |

参考；伊藤博・河津祐介編「感性開発ゲーム」（明治図書、1982年）